

広域都市基盤整備基本計画の策定方法 に関するシステム論的研究

京都大学 正員 春名 攻
和歌山県 正員○村橋 正武

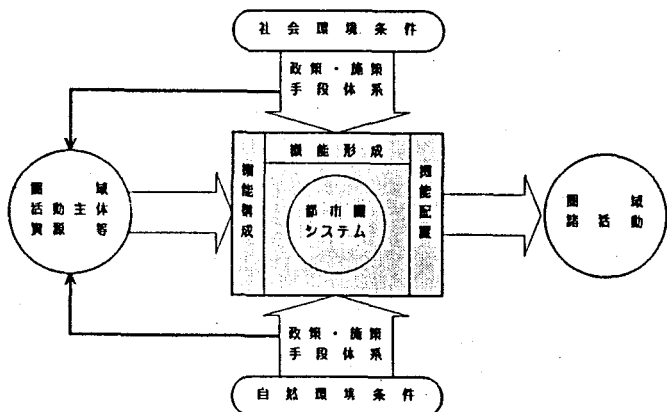
1. 計画の体系とシステム論的把握

都市圏整備のための計画は、計画目的に応じて「構想計画－基本計画－整備計画」という構成で、各段階毎に計画内容を具体化する手段をとる。すなわち表－1に示すように、まず「構想計画」は、整備の動機となる政策命題に基づいて、都市圏整備の方向、将来像、都市圏機能等を明らかにし、概念レベルにおける整備の将来目標を設定する。ついで「基本計画」は、機能分担のあり方、機能の空間的、時間的配置、規模・水準等を明らかにし、都市圏内の機能システムを設計する。最後に「整備計画」は、施設の構成、配置、規模、形態等を明らかにし、物的レベルにおける施設整備を設計する。

一方、計画対象である都市圏をシステム論的に捉えれば「都市圏とは、図－1に示すように自然・社会環境条件等のシステム環境下において、圏域の活動主体、資源等をインプットとして、諸種の圏域活動成果をアウトプットとするシステム」のように定義できる。したがってここでの計画目的は、目標とする活動成果をあげるために自然・社会条件に政策・施策体系を通して働きかけ、システム環境を変更し、システムのレベルを向上させることであると言える。本研究は、以上のような概念的把握のもとで、和歌山都市圏での基盤整備計画化における「基本計画」策定方法に関するシステム論的研究について論じたものである。

図－1 計画の分類と内容

分類項目 計画体系	計画検討の単位		計 画 内 容
	時間	空間	
構想計画	長期	都市圏レベル	都市圏の将来目標の設定（概念レベル） ・整備の基本方向 ・将来像 ・都市圏全体の機能 ・都市機能分担 ・基本計画に向けての検討
基本計画	中期	地域・都市レベル	都市圏の中での地域・都市機能の検討（機能レベル） ・機能分担 ・機能の空間的、時間的配置 ・機能の規模、目標水準 ・機能に対応する施設構成 ・整備計画に向けての検討
整備計画	短期	地区・施設レベル	施設整備に関する検討（物的レベル） ・施設構成 ・施設の空間的、時間的配置 ・施設の規模、目標水準、形態 ・事業計画に向けての検討

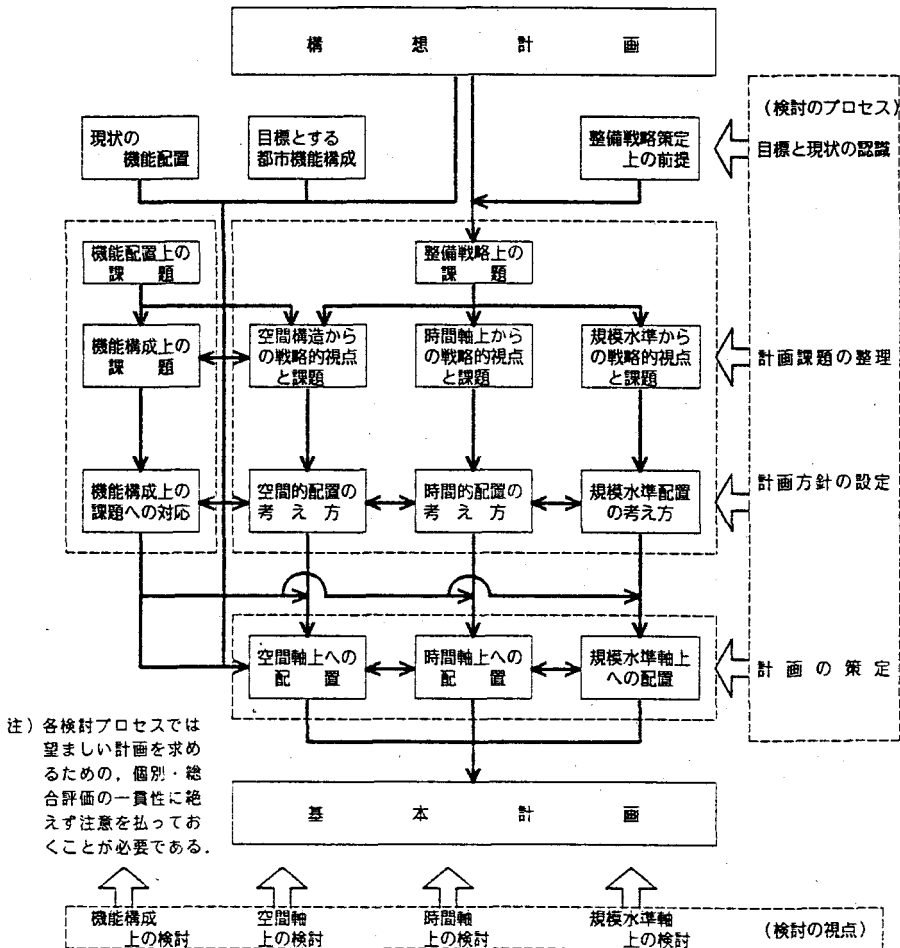


図－1 都市圏のシステム

Mamoru HARUNA, Masatake MURAHASI

2. 基本計画の策定プロセス

本研究で用いた基本計画の策定プロセスを示したものが図－2である。このプロセスでは、特に計画課題を整理する段階から計画方針を設定する段階までを、機能構成上の検討（施策体系の検討）と整備戦略上の検討（機能の空間、時間および規模・水準の検討）の二つに区分し、整備戦略上の検討から行うこととしている。これは先行する構想計画策定の段階を通して機能構成のあり方が既に概念レベルで示されていることに加え、検討対象とした和歌山都市圏の社会経済ポテンシャルが低下する傾向にあり、通常の個別施策の推進だけでは都市圏整備の目標を達成することが困難であるとの基本的認識に基づいている。すなわち、都市圏では内発的活力をいかにして生み出すかという戦略が最も重要な命題であり、各種の施策の具体的、効率的な推進に向けての総合的方策が確立していないことを背景にしている。このため構想計画における将来像を再確認したうえで、実行性のある戦略的な整備方策を、まず始めに明らかにしておく必要があると考えたためである。



図－2 基本計画の策定プロセス

3. 基本計画（和歌山都市圏におけるケーススタディ）

以上の考え方にに基づき、和歌山都市圏における整備戦略の課題と検討の視点を整理したものが表－2である。整備戦略を検討する前提として、①内発的活力の低下傾向にある地域での都市整備、②大都市圏のアウターリング（外縁部）での都市整備、および ③外的インパクトに積極的に対応すべき地域での都市整備、の三つの条件をもとに、整備構想における新しい都市構造の提案をはじめとする整備の方向について、戦略的整備を図る上で検討すべき課題を整理し、さらにこれを機能システム設計のため空間、時間、規模・水準および政策・制度上の視点として取り扱うべき検討領域を示している。

この結果、機能システムの設計例として、機能配置については空間構造の階層性に留意した検討プロセスにより、図－3に示す機能配置を作成した。機能形成については図－4の段階的重点的整備プロセスにより、図－5に示す空間的機能形成図を作成した。

表－2 整備戦略策定における課題と視点

整備戦略策定上の 前提条件	構想計画における整備構想 (目標) 活性化・一体化・自立化	整備戦略策定における課題	検 討 の 視 点			
			空間	時間	規模 水準	政策 制度
内発的活力低下傾向 にある地域での都市 整備	○新しい都市構造の選択 和歌山市、橋本市および御坊市の 多極型都市構造（3極構造）の提案 ○新しい産業構造への提案 ○都市基盤の整備の方向の提案	○3極構造のあり方 ○産業構造のあり方 ○効率的段階的整備 のあり方 (立地要因、地域特性等) ○総合的整備戦略のあり方 (プロジェクト パッケージ化)	●	○	●	
大都市圏のアウター リングでの都市整備	○発展プロセスに関する提案 大都市圏との適切な機能分担を 図りながら自立的発展を目指す。	○大都市圏との機能分担の あり方 ○自立的発展のあり方	●	○	○	
外的インパクトに 積極的に対応すべき 地域での都市整備	○外的インパクトの積極的活用	○大規模プロジェクトの インパクトの生かし方	●	●		
		○公共民間の役割分担 のあり方 ○政策的制度的対応 のあり方 企業優遇措置等の政策 の再検討 工場制限三法の規制 緩和等		●		●

注) ●重点的検討 ○関連記述

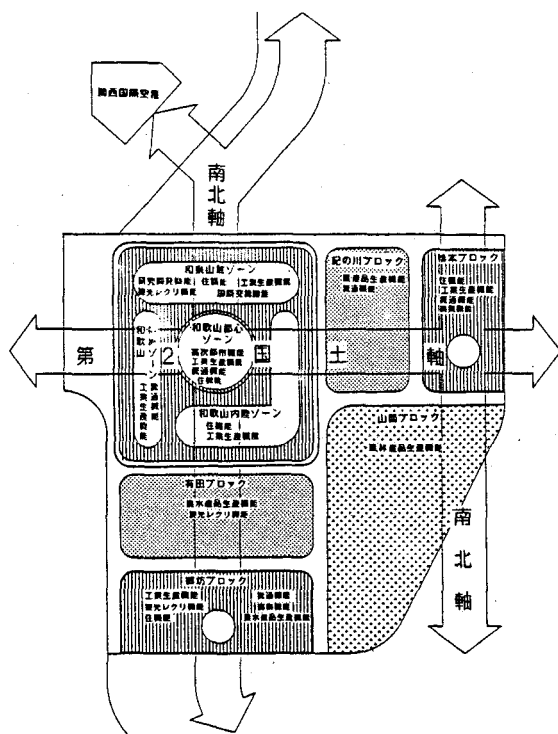


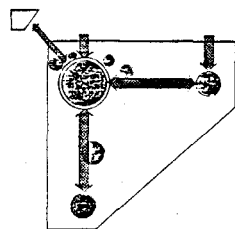
図-3 和歌山都市圏の機能配置

第Ⅰ期

(拠点開発)

○地域

ポテンシャル
の向上

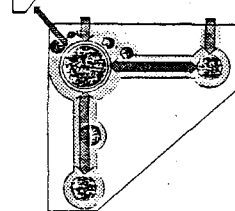


第Ⅱ期

(軸状開発)

○自立的都市圏

への誘導



第Ⅲ期

(面開発)

○新たな活力

の創出

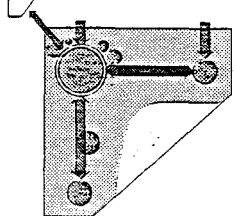
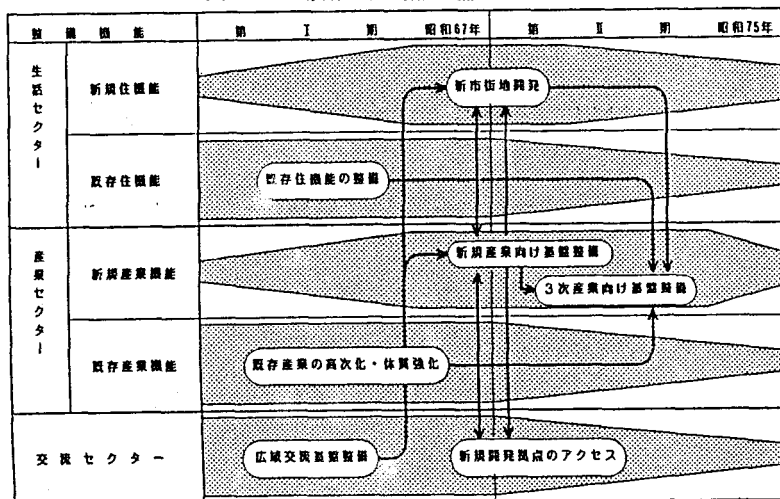


図-5 和歌山都市圏の空間的機能形成

図-4 段階的重点整備プロセス



4. おわりに

本論では、和歌山都市圏をケースに広域都市基盤整備に関する基本計画として、機能システム設計の方法論について考察した。都市圏の整備についてはさらに物的システムの設計を行い、施設レベルでの整備計画を策定するとともに、これを支援する計画情報の体系化を図る必要がある。引続きこの点についての考察を進めたいと考えている。